

## 【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の災害
3	資料名	津波大石（ツナミウフイシ）
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	沖縄、災害、津波、津波大石、明和の大津波、先島津波、石垣島、八重山、崎原公園
6	説明	<p>津波大石（ツナミウフイシ）は、石垣島南東部の大浜の崎原公園（沖縄県石垣市字大浜下屋敷地）にあり、長径 12.8m、短径 10.4m、高さ 5.9m で、推定重量 1,000 トンの巨大なサンゴ石灰岩の岩塊である。</p> <p>2013 年 3 月 27 日付で、津波大石（つなみうふいし）を含む 4 箇所の津波石が「石垣島東海岸の津波石群」の名称で国の天然記念物（地質・鉱物）に指定された。その後、2013 年 10 月 17 日付で、さらに 1 箇所の津波石が天然記念物に追加指定された。</p> <p>「津波大石」は明和大津波で打ち上げられたものと伝承されていたが、表面に付着したサンゴの年代等を分析した結果、1771 年の明和の大津波ではなく、先島津波と名付けられた約 2000 年前の津波によって打ち上げられたものと考えられている。</p> <p>残りの 4 つが、1771 年の明和大津波に由来するものであることが、『大波之時各村之形行書（おおなみのときかくむらのなりゆきしよ）』〔石垣島南東沖で起きた地震による津波（明和大津波）の被害状況を八重山から王府に伝えた公式の報告書〕の記録や最新の年代測定の結果、明らかになっている。</p> <p>①津波大石（つなみうふいし） 石垣島南東部の大浜の崎原公園（沖縄県石垣市字大浜下屋敷地）</p> <p>②高こるせ石（たかこるせいし） 石垣島南東部の大浜（沖縄県石垣市字大浜船着原）の畑地</p> <p>③あまたりや潮荒（あまたりやすうあれ） 石垣島中部の伊野田（沖縄県石垣市字桃里伊野田）の海岸から約 200m 離れた畑地内</p> <p>④安良大かね（やすらうふかね） 石垣島北部の平久保半島の安良（沖縄県石垣市字平久保平久保牧）の浜辺</p> <p>⑤バリ石 石垣島北部の平久保半島の伊原間の東側、トムル崎とヤバガ崎間のヤバガ浜</p>
7	形式	静止画（jpg）
8	氏名	撮影者：*****
9	時代・年	撮影日：2012/6/17
10	地域・場所	沖縄県石垣市字大浜下屋敷地
11	利用条件	表示 4.0 国際（CC BY 4.0）で提供

1 2	関連資料	
1 3	権利者	岐阜女子大学
1 4	協力者	なし
1 5	登録日	2024/04/19
1 6	登録者	*****
1 7	ファクトデータ	cired0725-0048. jpg
1 8	サムネイル	
1 9	公開の可否	公開可
2 0	* 特色	<p>【台湾地震】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年4月3日に発生した台湾付近を震源とするマグニチュード7.7の大地震で気象庁は沖縄県宮古島・八重山地方と沖縄本島地方に、一時、津波警報を発表しました。</li> <li>・沖縄タイムスによると、石垣島では、同11時半時点で、市役所や公民館など指定の避難施設に計4237人が避難した。備蓄品からおむつや飲料水を支給したとしている。</li> </ul> <p>【明和の大津波】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1771年4月24日午前8時ごろ、石垣島近海（石垣島の南南東約40km付近）でマグニチュード7.4の地震が発生した。地震の揺れによる被害はなかったようだが、大津波が八重山諸島及び宮古諸島に押し寄せ、たくさんの死者・行方不明者が出たといわれている。</li> <li>・石垣島地方気象台のデータによると、死者・不明者数は、八重山地方で9,313人（このうち石垣島8,439人）、宮古島地方で2,548人、合わせて11,861人、八重山地方における津波による死亡率は、石垣島で48.6%、八重山地方全体で32.2%とされている。</li> <li>・明和の大津波に襲われる前の八重山地方の人口は3万人弱だったが、津波の後には2万人ほどに減り、津波後約100年後の明治時代の初期には1万人程度まで減っており、その原因は、津波によって居住地域の衛生環境の悪化や、八重山の田畑が冠水して土地が疲弊し、飢饉や疫病等により、さらに多くの人々が亡くなったのではないかと考察されている。</li> </ul>
2 1	* 活用支援	
2 2	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習、災害学習

23	*改善結果	
24	*処理プロセス	
25	機関外リンク情報	
26	目標	
27	紹介	